佐賀県
唐津市
KaratsuCity

Press Release

開催延期

令和８年１０月７日
教　育　委　員　会

『旧三菱合資会社唐津支店本館』を特別公開します

県指定重要文化財『旧三菱合資会社唐津支店本館』の建物内部を特別公開し、建物の見どころや今後の修理方針を紹介します。

１ 日　時 １０月２４日（土）、２５ 日（日） ９時～１６時

２ 場　所 旧三菱合資会社唐津支店本館（唐津市歴史民俗資料館、海岸通 ７１８１ 番地 ２）

３ 入場料 無料

４ 交　通 ・西唐津駅から徒歩約１５分
・唐津駅から車で約１０分
・唐津バスセンターから呼子方面バス乗車１０分、「妙見神社下」下車、徒歩１０分
隣接地に臨時駐車場（１０台程度）があります。
できるだけ公共交通機関を利用してください。

５ その他 事前申し込みは不要です。
中止の場合は市ホームページでお知らせします。
※写真データが必要な場合は下記まで連絡してください。

※延期後の日程につきましては改めてお知らせします。

本件の問い合わせ先
教育委員会事務局　生涯学習文化財課
担当：米倉
電話：直通　72-9171　（内線：3141）

令和８年度『旧三菱合資会社唐津支店本館特別公開』開催要項

１　行　事　名　　『旧三菱合資会社唐津支店本館特別公開２０２６』

２　概　　要　　現地での保存修理が決定した旧三菱合資会社唐津支店本館を特別公開し、建物の文化財的価値や今後の修理方針を紹介します。

３　目　　的　　令和４年度より保存修理事業に着手している旧三菱合資会社唐津支店本館について、修理前に内部を公開して市民の方々が地域の歴史に親しむ機会を設けるとともに、文化財的価値や修理方針を紹介することで歴史的建造物の保存修理に対する理解を広く深めることを目的としています。

３　日　　時　　令和８年１０月２４日（土)、２５日（日）
午前９時～午後４時
※随時観覧可

４　対　　象　　市民一般（市内・市外を問わない）

５　入　館　料　　無料

６　申　込　等　　事前申し込み不要（団体は要予約）

７　駐　車　場　　隣接地（歴史民俗資料館緑地公園）に臨時駐車場有り
（１０台程度）
※できるだけ、公共交通機関の利用をお願いします
・西唐津駅から徒歩約１５分

８　雨　天　時　　雨天決行（荒天の場合は中止）
※中止の場合は唐津市ホームページでお知らせします。

９　そ　の　他　　館内が混雑し、一定の人数を超えた場合は入場制限をします。

建物周辺を見てみよう

建設当時の旧三菱合資会社唐津支店本館
【国立国会図書館ウェブサイトより】

唐津西港の様子【大正時代】

旧三菱合資会社唐津支店本館は、現在の唐津西港に面した埋立地に建てられています。

唐津西港は、大型の船の入港が難しかったかつての唐津港の問題を解決するため、唐津銀行頭取の大島小太郎などの地元財界人が中心となって整備を進めたものです。この埋立地も、大島小太郎が完成させた後、三菱がこの埋立地を買収し、現在の建物が明治 41 年 (1908 年)9 月に建物が竣工しました。

当時の写真を見ると、建物から唐津港が一望でき、石炭が鉄道で大島の貯炭場へ運ばれ、次々と船で各地へ積み出されていく様子が手に取るようにわかる絶好の立地だったことが分かります。

現在の様子

周辺の埋立が進み、建物北側に橋が架かるなど環境の変化はありますが、上空から見ると海に面して建てられていることを確認することができます。

また、建物の敷地周りには、当時の護岸や防波堤も残されています。

佐賀県重要文化財
旧三菱合資会社唐津支店本館
特別公開

【名　称】旧三菱合資会社唐津支店本館
（唐津市歴史民俗資料館）
【所在地】佐賀県唐津市海岸通 7181 番地
【構　造】木造２階建て、入母屋造り
【規　模】面積：１階 約 428 ㎡、２階 約 413 ㎡
【建築年】明治４１年（1908）
【設　計】三菱丸ノ内建築所
【施　工】神戸三菱建築事務所

旧三菱合資会社唐津支店本館は、明治 41 年 (1908) に建てられた、 木造２階建ての洋風建築です。海に面する東側と北側には１・２階ともにベランダがあります。建物のデザインは、外壁や破風（はふ）はハーフティンバー様式*を基調としていますが、大屋根は日本の伝統的な入母屋造り（いりもや）**です。また、屋根には急勾配の塔屋根の両脇に千鳥破風を配し、正面玄関には三面破風屋根の車寄せが付きます。

内部は、実用的な事務所であったため簡素ですが、階段部分に施された透かし彫りの装飾や、玄関には彩色されたテラゾー模様など、控えめですが洗練された装飾がみられます。

設計は三菱丸ノ内建築所で、当時の所長は保岡勝也（やすおかかつや）***でした。設計図には、関東大震災後、昭和の建築界を牽引した内田祥三（うちだよしかず）**** の印があり、若き日の内田が唐津支店の設計に携わったことがわかります。また、保岡の前任の所長は唐津藩出身の曽禰達蔵（そねたつぞう）であり、当時、三菱の顧問をしていたことから曽禰が関与した可能性も考えられています。

この建物は、一部改修や補修の跡がありましたが、大改修はされておらず、昭和 54 年の修理によりほぼ創建当初の姿に戻っています。屋根、床、基礎、内装、ベランダなどに特色があり、往時隆盛を誇っていた三菱の様相をほうふつとさせるものであり、県内に数少ない明治時代の木造洋風建造物として大変貴重であることから、昭和 55 年（1980）に佐賀県重要文化財に指定されました。

長らく老朽化のため休館しておりましたが、現在、保存整備のための準備作業を進めています。

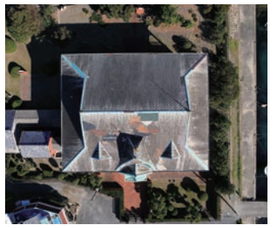
＊　ハーフティンバー：柱や梁、筋交いなどの木部を外に見せ、その間を化粧漆喰で仕上げる。イギリスなどヨーロッパの北側の住宅建築などに用いられた。

＊＊　入母屋造り：上半分が切妻造り、下半分が寄棟造りの形式。神社仏閣、城郭建築などでみられる。

＊＊＊　保岡勝也：曽禰達蔵の後継として三菱のオフィスビルを手がける。三菱退社後は、住宅作家として活躍。

＊＊＊＊　内田祥三：明治 43 年に東大に戻り、鉄筋コンクリート構造学の研究に従事。関東大震災後は安田講堂建設など東京大学構内の復旧にもつとめた。昭和の建築界を牽引し、幅広い分野に功績を残している。

外観を見てみよう



屋根

旧三菱合資会社唐津支店本館（唐津市歴史民俗資料館）の特徴は、なんといっても入母屋（いりもや）造りの大屋根です。「洋館なのに屋根は和風」という不思議なデザインは、見る人を惹きつけます。

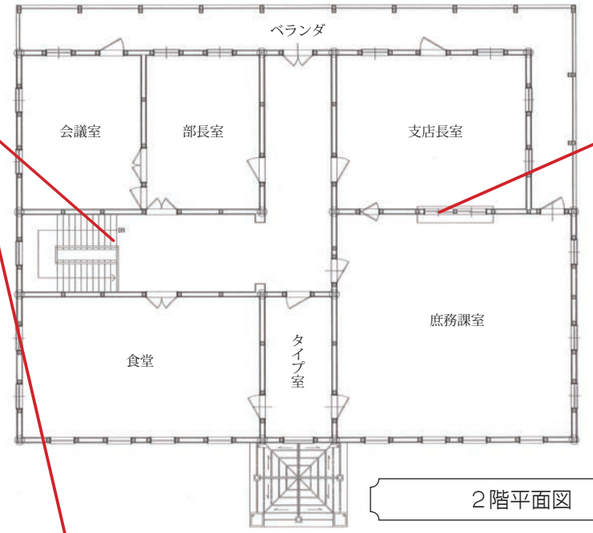
また正面には尖塔（せんとう）を配置し、その両脇に三角の千鳥破風（ちどりはふ）を設けるなど、デザインにアクセントをつけています。

ベランダ

本来、ベランダは直射日光を避けるために南側に設けられることが多いのですが、この建物では海に面した北側と東側に設けられています。石炭の積出港であった港からの見た目を重視して設計されたことが分かります。

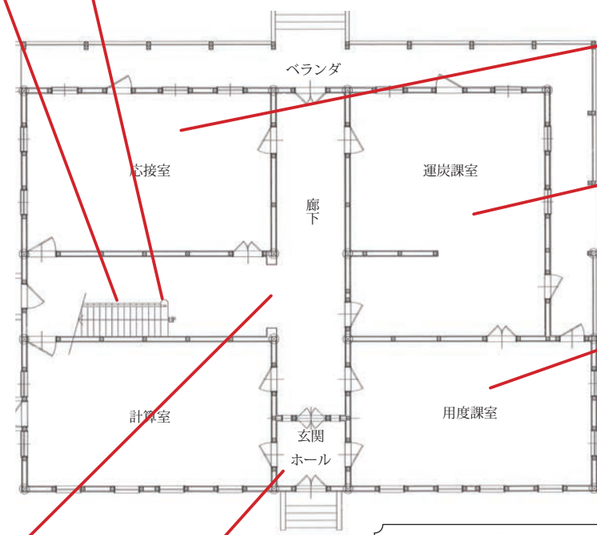
内部をじっくり見てみよう

階段の手すりにはアカンサス（西洋アザミ）のつぼみをモチーフにした飾りや、透かし彫りがはめ込まれ、非常に装飾性豊かです。



２階平面図

木製の勘定台はシンプルな装飾で重厚な雰囲気。



１階平面図

建物１階の天井は、格縁（ごうぶち）天井で、各部屋ごとに違うデザインになっています。

目立たないところにもいろいろな装飾が施されています。ひっそりと施された装飾を探してください

建物１階の床は、四角いタイルを並べたように見えますが、実は大理石の粉をモルタルに混ぜて床に塗り、目地を切って磨き上げて仕上げたもので、テラゾー（人造大理石）と言われるものです。

玄関や廊下の中ほどには色を付けて模様を研ぎだした、ほかには見られないような貴重なものも見られます。